

会 議 録

1 会議名

第3回上越市総合計画審議会

2 議題

(1) 基本構想（案）について

3 開催日時

平成26年6月5日（木）午後1時30分から午後3時30分

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：濱祐子、荒川俊治、岩佐明彦、佐藤芳徳、平澤則子、渡邊隆、菅文男、鈴木興次、秋山三枝子、荒井隆、市川裕光、浦野憲一、大嶋慶子、荻谷賢一、笹原茂、服部伸、吉村久子、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松縄武彦、松本美鈴

・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、大島副課長、青山係長、石黒係長

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 挨拶

【佐藤会長】

本日はご多用の中、第3回上越市総合計画審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。本日の議事は、基本構想（案）についての1件のみであるが、総合計画の中核となる部分である。小さなことでも構わないので遠慮なく意見を賜りたい。

(3) 議事

○議題(1)基本構想（案）について

【事務局（石黒係長）】

資料1、2、3により説明。また、本日欠席の中條委員より、議題について事前

に頂いた次の意見を紹介。

〔中條委員〕

- ・ 資料1の「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の概念の中に、「若者が戻ってこられるまち」を目指すことを入れられないか。また、若年女性の流出への対応について、(仮)まちづくり分野、基本施策3「男女共同参画社会の形成」の施策の柱に入れるよう検討してほしい。
- ・ 資料2の健康福祉分野、基本政策3「子どもを産み育てる環境の充実」の施策の柱3「育児支援施設の開設」を「育児支援施設の開設と充実」にしてほしい。

【鈴木委員】

資料1の市政運営のテーマにある3つの共通課題のうち、世帯構成の変化とはどういうものか。また、同資料の市政運営のテーマに基づく政策展開の考え方に「守り」と「攻め」が対極的なものとして示されているが、そのように捉えるべきではないと思う。

【事務局（南企画政策課長）】

世帯構成の変化については、前回の審議会の資料3、序-2（2）上越市を取り巻く現状と課題で示したものであり、第5次総合計画の取組の検証に基づいて抽出したものである。世帯構成の変化は地域ごとに状況が異なっている。中山間地域では夫婦のみ世帯の割合が高く、高齢化、人口減少が進行し、農地の保全や生活維持のための支え合いなどが困難になることが想定される。一方、市街地では単身世帯や核家族の割合が高いが、高齢化率は比較的低く人口は増加傾向にあり、子育てや教育、雇用などのニーズや課題がある。地域ごとの状況は大きく分けてこの2点であり、これらを踏まえた上で計画を策定する必要があると考えている。

【事務局（石黒係長）】

市政運営のテーマに基づく政策展開の考え方について、上越市は歳入・歳出の不均衡という厳しい財政状況下にあるが、行政を縮小させる「守り」だけではなく、「攻め」の姿勢も必要であるという気持ちを抽象的にイメージしており、今後表現に整理を加えたいと思う。

【上原委員】

資料1の「誰」にとっての「選ばれるまち」「住み続けたいまち」かについて、時間軸の観点に過去（以前住んでいた人）を念頭に置くとあるが、以前住んでいた人とは転出した人と理解してよいか。また、以前住んでいた人を念頭に置く意味と、それがどのように基本政策に織り込まれるのかを確認したい。

【事務局（石黒係長）】

人口減少という大きな課題に対し、進学や就職等で市外に出た方など上越に縁のある人とのつながりを意識し、子どもたちが帰ってきたいと思うまちにしたいという意図を込めて過去（以前住んでいた人）という表現をした。

【荻谷委員】

資料1の③まちの求心力向上に向けた、様々な主体から「選ばれるまち」の実現に、企業や団体から事業活動を営むまちとして選ばれ、とあるが、企業や事業所が地域で十分な活動をするためには就労人口の維持が必要であり、若者が戻って来られるまちにする必要がある。

【事務局（青山係長）】

若者が戻って来られるという視点は当然必要であると考えており、就労機会の拡充などとして施策体系の中に掲げたいと思う。市外に転出した人が就職しやすい環境づくり以外にも、女性や高齢者の就労やまちづくりへの参画などの政策や施策を展開していきたい。

【菅委員】

就労機会の拡充という視点は大事であるが、それを個別の施策の中でどのように具体化し、反映していくかが重要である。いろいろな人から選ばれるという趣旨でよいのではないか。

【浦野委員】

上越市の自主防災組織は高いレベルであると認識しているが、合併前上越市は13区のコミュニティセンターに相当するような施設がなく、施設の数も多くあっても耐震化していない等の理由から避難訓練の際に利用できないなど、基本的な施設整備ができていないと感じる。施設ごとに市の管轄が違い、駐車場の利用の可否など市民に分かりづらいところもある。施設整備は財源を伴うものであると承知しているが、もう少し市民に分かりやすいようにしてほしい。

【事務局（南企画政策課長）】

指摘いただいた件については、以前から関係各課等で議論を重ねている状況である。審議会で各分野の基本的な課題や大きな方向性をまとめ、それに基づいて各施策を進めていきたいと思う。

【服部委員】

人口減少は避けられない現実であり、簡単に人口は増えるものではない。人口減少は課題として捉えるのではなく、前提とした上で計画を進めていくべきである。10年後には団塊世代が後期高齢者になる。医療・福祉も今のままではもたないので再構築が必要である。また、総合計画の計画期間は何年か。現実的に効果のある施策を吟味して実行してほしいと思う。

【事務局（南企画政策課長）】

人口減少をはじめとした3つの共通課題については、基本方針のところでも触れているが、共通課題を前提として計画を策定するものと考えている。共通課題をベ

ースとしながら各分野の施策を進めることで、まち全体の総合力を強化し、選ばれるまち、住み続けたいまちを実現していきたいと思う。

総合計画の計画期間は8年であり、基本構想は8年、基本計画は前期4年、後期4年である。

【佐藤会長】

第1回審議会で人口減少を前提として議論を進めることを確認したと思う。また、少子高齢化と人口減少には課題としての意味合いに若干の違いがあると思うので検討してほしい。

【渡邊委員】

3つの共通課題について、「課題」という言葉には解かなければならない問題という意味合いがある。服部委員の意見にもあったように、人口減少は現状の認識とするのが適当であり、現状を踏まえた上で意見を出し合うためのキーワードである。

【事務局（川上企画政策部長）】

3つの共通課題については、現状であると同時に課題として捉えられるという二面性があると思う。現状として受け止めていくのか、ある部分では緩和策を講じていくのか、分野ごとにも状況が異なると思うので、委員の皆さんから各分野における意見を頂きながら計画を練っていききたいと思う。

【秋山委員】

共通課題の歳入・歳出の不均衡について、今後歳出を減らしていくにあたり、職員削減による人件費の節減など、何か手立てはあるのか。計画に基づいたまちづくりを行うには、地域自治を根付かせることが最大のテーマであると思うが、行政の中身に変化がなければ市民も頑張り甲斐がない。

【事務局（川上企画政策部長）】

職員削減については定員適正化計画にて、削減後の目標職員数や現在の人件費が適正かどうかを含め総合的に検討している。また、行革、財政計画等も総合計画と併せて検討している。市民の皆さんと一緒にまちづくりを行っていただけるようなメッセージを込め、分かりやすい計画を作っていきたいと思う。

【上野委員】

農林水産分野の基本政策に「多面的機能の維持」とあるが、その施策の柱に「食、自然環境、それを活用した生き方」などを盛り込むべき。

【荒川委員】

人口減少は議論の余地のない問題であるとして受け入れてしまうと中山間地域は消滅してしまうため、対策が必要である。

上野委員の意見についても、農林水産分野の施策には言葉では表すことのできない部分があると思う。

また、「まち」という言葉を漢字表記にした方が、市民にとってはイメージが湧きやすいのではないか。「すこやか」は「健やか」と漢字を当て、健康をイメージしてよいのか。

【事務局（川上企画政策部長）】

農林水産分野は確かに様々な面をもっており、基本政策に示した生業としての農林水産業、多面的機能の維持だけに絞って表記するのは難しい部分もある。皆さんから意見をいただきながら改めて整理していきたいと思う。

【事務局（石黒係長）】

「すこやか」とは、安全、快適、充実など市の理想の姿や思いをまとめ、その総体としての状態を文字どおりの「健やか」になぞらえたものである。「まち」については、市全体をイメージしていることを表現してひらがな表記にしてある。

【松縄委員】

健康福祉分野の基本政策「市民の健康寿命の延伸」と基本施策「心と体の健康の増進」は体系が逆ではないか。「心と体の健康の増進」の方が広い意味であるように感じる。市民の日常の健康維持増進については、個々の施策の中で具体的に位置付けられるのか。

【事務局（青山係長）】

あらゆる年代において日常から健康の維持増進に取り組むことで、市民全体の健康寿命の延伸を図るという考え方をもとにしている。施策の柱には運動や食生活の見直しにより健康を増進するという意味も込めている。

【事務局（石黒係長）】

個々の施策については基本計画において示す構成を考えている。施策に対する皆さんの思いを寄せていただきたい。

【服部委員】

健康福祉分野に関して、安心して息を引き取ることができるまち、安心して介護を受け、人生を完結できるまちが重要である。人が安らかに亡くなるためには丁寧な対応が必要である。上越市では月に200人亡くなり、150人が生まれているが、亡くなられる方のうち老人ホーム等での施設死の割合が増加しており、看取りの方法などが議論され、広めようとする動きがある。終末福祉医療の充実したまちにしてほしい。ゆりかごから墓場まで健康の大切さを明記した方がいい。

【平澤委員】

健康・福祉分野の医療体制充実の中の各施策が偏っているため、例えば在宅医療の推進など、様々な施策のアイデアが導かれる項目立てをしてもらいたい。

【市川委員】

選ばれるまちやまちの力の活用を実現するため、恵まれた観光資源をいかし、基本政策や重点戦略に観光分野を設け、大きな柱として取り組んでもらいたい。観光をどのように捉えているのか知りたい。

【事務局（青山係長）】

観光は、現時点では産業・経済分野に位置付けており、観光目的だけではなく、市外から来ていただく人を増やすという交流人口の拡大として大きく捉えている。

【佐藤会長】

観光の取扱いはぜひ検討してほしい。

【御所窪委員】

海外から見ると日本は安心・安全に訪れることができ、観光地として優れている上、医療環境が非常に充実している。例えばロシアの富裕層をターゲットとして、上越の桜と人間ドッグを結び付け観光と医療をセットにした観光客誘致を行ったらどうか。

また、松本、上越、富山、金沢に医療・看護系の大学があるため、北陸新幹線開業を機にメディカルタウン構想を掲げるのもよい。

【濱副会長】

上越の魅力を大人が子供に伝えきれていない。上越に戻ってきたい、まちのために何かしたいという気持ちや、桜や地域の偉人を自慢したいと思えるような教育や観光対策に取り組んでほしい。観光地や交通網の整備をすれば若い世代の交流人口の拡大にもつながり、人口減少対策にもなると思う。

【荒川委員】

若者が地域に定着するための最重要課題は、地域に複数以上選択できる職場があることである。子どもたちに上越の魅力を伝える教育も必要であるが、生活の糧となるような職場があるかどうか最終的に一番の問題になると思う。

【秋山委員】

公民館の役割が、合併前上越市と13区で異なり、13区では教育施設に加えて地域自治やまちづくりの拠点としての機能がある。公民館は教育分野、まちづくり分野の両方に関わるものであるが、審議の際は分断されがちである。市として公民館の役割をどのように捉えているのか。将来、地域づくりの担い手となる人を誰がどこでどのように育てていくのかが見えてこない。地域づくりには拠点や仕組みが求められており、個別の施策に位置付けてほしい。

【事務局（石黒係長）】

総合計画は市政運営の理念を掲げ、重点的に取り組むものや具体的な施策の体系

を示していくものである。計画には人の暮らしを軸にしているという特色を反映したいと考えており、言葉づかいや様々な視点なども大切にしたいと思うので、審議の中でご指摘いただきたい。

【佐藤会長】

基本的な問題や課題を視野に入れながら計画を策定してほしい。

【大嶋委員】

上越市は、学校と地域、家庭が一体となって子どもの教育をしようという機運が強く、地域で子どもを見守る基本ができていると感じる。今年から教育の日が制定されたが、行政にもあまり浸透していないように思える。施策においてそのような視点が薄いので、地域が軸となることを総合計画に取り入れてもらいたい。

【事務局（青山係長）】

上越市はコミュニティスクールの推進など、地域の皆さんと関わりながらの学校運営に力を入れており、今後も軸になる大事な政策である。地域ぐるみの教育は重要な視点であると思うので、個別の取組に何らかの方法で取り入れることを検討したい。

【平澤委員】

資料2にある基本政策のイメージ図の真ん中に「まちづくり分野」が入っていることに違和感がある。上越市の今後の10年間は社会システムを変えていく変革期になると思うので、重点を上越らしく表したものをに入れてはどうか。

【事務局（石黒係長）】

基本政策のイメージ図は、市の施策としての体系をイメージしており、まちづくり分野が全ての体系に関わるとの考えから中央に示した。イメージ図は大切なものであるので、意見を踏まえながら今後検討し、重点についても視野に入れながら審議いただきたい。

【佐藤会長】

分野という言葉が共通して使用されていることもあり、イメージ図は少し誤解を招きやすいので検討してほしい。

【菅委員】

上越市では高校生の地元就職が進んできており、その点では若者から選ばれるまちになってきているように感じるが、卒業生の4分の3は卒業とともに市外に出て行ってしまふ。一度出た人たちを呼び戻すのは重要なテーマであるが、市はこの施策についてどう考えているのか。

また、資料2の産業・経済分野、市の役割のところに、賃金、勤務時間、ワークライフバランス等の労働環境が整い、とあるが、それらが施策に組み込まれていな

いのはなぜか。賃金面で首都圏より秀でることは難しいが、女性にやさしい職場環境など働きやすい職場の整備に力を入れれば首都圏にない魅力になると思う。

【事務局（青山係長）】

職場環境を充実させる前段として、進学等で市外に出ていった人をはじめ様々な人の雇用機会の充実が市の役割であると考えている。実際、市がどこまで職場環境の充実に踏み込めるかが分からず、現在このような体系を示している。

【服部委員】

施策の柱のところでは数値目標を設定するのか。

【事務局（石黒係長）】

第5次総合計画でも数値目標を掲げている。複合的な要素があるものを数値として設定してよいかは未定だが、何らかの指標は必要であると考えており、検討したい。

【上野委員】

産業・経済分野の施策の柱にある市内の回遊性の向上は非常に重要であると思う。市民大学等で観光ボランティアの養成を行っていたと思うが、そういった市民の行動力を観光に取り込んでほしい。

【佐藤会長】

定刻なので意見がなければこれで議事を終了したい。

【全委員】

了解。

(4) その他

【事務局（大島副課長）】

次回審議会日程等事務連絡。

審議会運営について資料3により説明。

【全委員】

了解。

9 閉会

10 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL : 025-526-5111 (内線 1452)

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。